

神林レポート

東京都議会議員 神林 茂 (かみばやし しげる)

〒144-0034 大田区西糀谷 4-16-17 Tel : 5735-3150 / Fax : 5735-3151

<http://www.s-kamibayashi.com/> E-mail kbs0417@nifty.com

事務連絡

No.66



2007 年新春号



賀春



神林 茂

旧年中は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございました。

本年もチャレンジ精神をもって東京の刷新と、夢と希望に満ちた地域社会づくりに頑張ります！
本年もご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

神林茂「十年後の東京」
❖美しい自然環境や文化を子供たちに残したい
❖心の豊かさや助け合える東京づくりを実現したい
❖一生懸命頑張る人が報われる東京にしたい

皆さんと力を合わせて、今日から一歩ずつ実現させていきます！

十年後の東京 〜東京が変わる〜

昨年の十二月、東京都では、今後十年にわたり、どのような都市の姿を描きながら、将来に向けて政策展開を進めていくのかを、発表しました。(以下抜粋)

①水と緑の回廊で包まれた美しい街東京を復活させる
グリーンロード・ネットワークの形成、千紗の緑の創出、水辺空間の再生、無電柱化の推進、屋外広告物規制等による景観形成等。

②三環状道路により東京が生まれ変わる
三環状道路の整備により渋滞解消、環境改善、陸海空のネットワーク向上、多摩地域が首都圏の中核地点に発展、バスの復権等。

③世界で最も環境負荷の少ない都市を実現する
「地球温暖化対策推進基金」創設、世界最高水準の省エネ対策等「カーボンマイナス東京十年プロジェクト」の推進等。

④災害に強い都市をつくり、首都東京の信用を高める
地震に対する国際的評価を向上(緊急輸送道路沿道の建物、学校病院等防災上重要な建物の100%耐震化)、最先端技術のテロ対策等。

⑤世界に先駆けて超高齢社会の都市モデルを創造する
「福祉・健康安心基金」創設、アルツハイマー病の予防・治療研究推進、障害者雇用三万人創出、待機児童五千人解消、他。

⑥都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立
外国人旅行者を二千万人に倍増(文化発信、舟運、ユビキタス技術の活用他)、「創造的都市型産業」への戦略的支援他。

⑦意欲ある誰もがチャレンジできる社会を創出
学力向上徹底、「再チャレンジ応援学金」「アジア人材ファンド」創設、ものづくり人材の複線的な教育システム確立他。

⑧スポーツを通じて次代を担う子供たちに夢を
「スポーツ・文化振興交流基金」創設、「東京版スポーツOD A」、ボランティア育成等。

東京都議会議員

神林茂君を励ます会

平成19年3月16日(金)



開場 午後6時 開会 午後6時半
大田区産業プラザ (PIO) 1階 大展示ホール
(大田区南蒲田 1-20-20 TEL03-3733-6466)

お問合せ先 神林茂事務所 (大田区西糀谷 4-16-17)
TEL03-5735-3150 / Fax03-5735-3151
皆様お誘い合わせの上、お申込みください。

東京都議会報告

平成十八年十二月八日に行われた都議会定例会における神林茂議員の一般質問より（抜粋）



行財政改革に関する質問

石原都政では厳しい財政危機を乗り越えるため、二十万人から十六万人に職員を削減するなど、行財政改革に積極的に取り組んでまいりました。しかし、行財政改革を推進する真の目的は、時代の変化に即応させてその成果を都民に還元することであり、引き続き職員定数の削減や監理団体改革等根本的な部分から洗い出し、「最小の経費で最大の効果」を生み出す為、常に行財政改革の推進に努めるべきであります。

質問…知事の基本的な考え方を伺いたい。

答弁…今後も現実性のある改革に取り組む。

質問…職員定数の削減をはじめとする内部努力を更に進めること、各局間の連携や都庁の仕事自体の進め方等の質の転換を図ること、都の監理団体に対して都民に見える改革を進めていくことなどについて、更に厳しくチェックしていくべきではないか。

答弁…ご指摘のあった点もふまえて、今後とも行財政改革に取り組む。

都立高校における「奉仕体験活動」

都立高校では平成十九年度から「奉仕体験活動」が必修化されます。生徒たちが奉仕の授業を通して奉仕の精神を学び、今後とも、自らの意志で社会貢献に取り組んでいくことに繋がれば素晴らしいことです。

質問…「奉仕」授業の取り組みを、今後どのように地域社会に広げ、子どもたちの奉仕活動をどのように継続させていくのか、という観点について考えを伺う。

答弁…奉仕の理念や意義を学ぶと共に、実体験を通して成就感や達成感を味わい、生涯にわたって社会に貢献することが出来る資質を高めるようにしていく。

消防団に関する質問

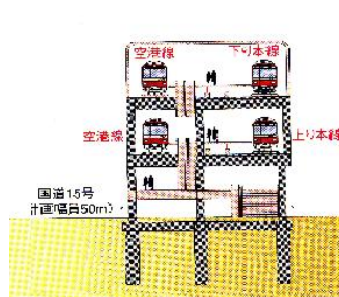
過密都市東京において、災害に強い街づくりに取り組むことは、地域住民にとって非常に高い希望であります。しかし、その防災リーダーとなるべき消防団員は、昨今、減少の一途をたどっております。

質問…消防団員の確保と、地域の防災拠点となる分団本部の整備促進を図るべきであると考えますが、所見を伺いたい。

答弁…幅広い層からの入団促進に努める。また、用地の確保に都各局や各区などとの連携を一層深め、分団本部施設の整備促進に努めていく。

京浜急行線高架工事のこれから

昨年暮れに、ようやく環八踏切近くの用地確保と京急本線下り線の架線切替工事が完了しました。今後の予定は、平成 20 年春に環八の仮線立体が完成し、その後、上り線と空港線が高架（京急蒲田駅の 2 層部分）となり、踏切での交通渋滞が大幅に解消されます。そして、京急線連続立体事業の全面完成と併せて、国道 15 号線の幅員 50m の拡幅工事とアンダーパス化工事の完成は、平成 24 年度を目途に進められています。



京急蒲田駅高架工事完成予想図

「認定こども園」は何ですか？

今までの幼稚園と保育園では、保護者の就労の有無で利用する施設が限定されてしまうことや、教育と保育が一体的に受けられないこと、子育てについて不安や負担を感じている保護者の方への支援が不足していることなどの課題が指摘されていました。こうした課題を解消する目的で、このほど「認定こども園」の制度が立ち上げられ、昨年の 10 月からスタートしました。この制度は従来の幼稚園や保育園が、新たに幼児教育と保育を一体的に提供する機能と子育てを支援する機能を備え、認定基準を満たす施設になることによって、都知事から「認定こども園」の認定を受け、行政整備費や運営費の助成を受けることができるものです。就学前の子どもにとっては、幼稚園や保育園が「認定こども園」と認定されれば、旧来の枠組みが取り払われて、親が働いているとかいないとか、幼児教育と保育とか、子育て支援とといったことが、総合的に受けられるようになるということです。

